経営比較分析表(令和4年度決算)

兵庫県 こども病院

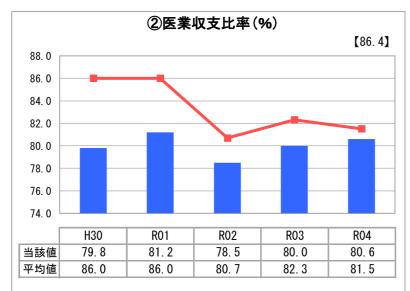
大洋木 しこり内肌					
法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報	
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上~300床未満	自治体職員	
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2	
直営	27	対象	Ⅰ未訓ガ	救 地	
人口(人)	建物面積(㎡)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置	
5, 459, 867	41, 324	非該当	非該当	7:1	

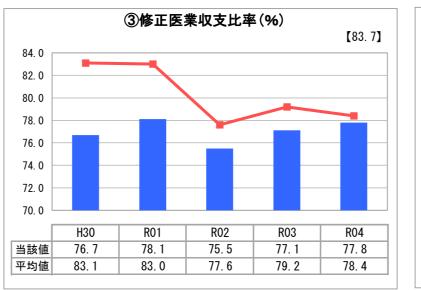
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)	
290	_	_	
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)	
-	-	290	
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)	
282	_	282	

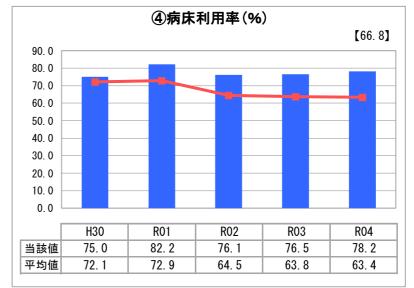
- ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療
- ※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

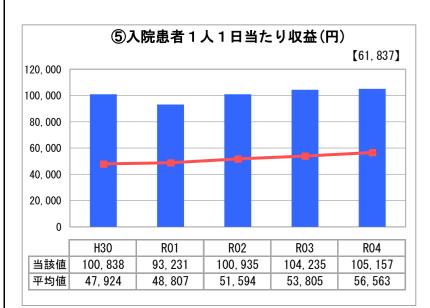
1. 経営の健全性・効率性

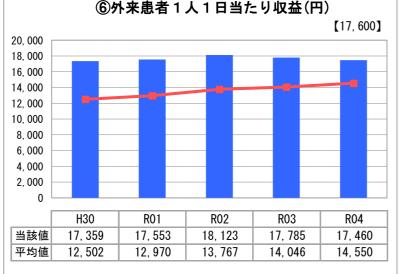


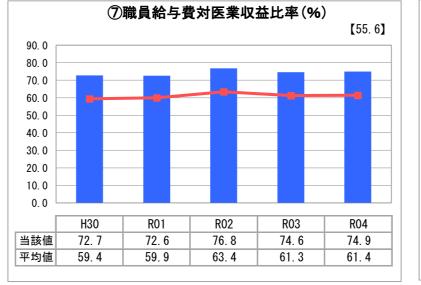


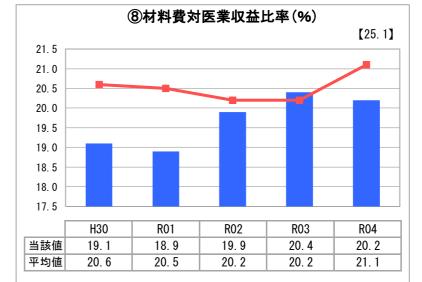




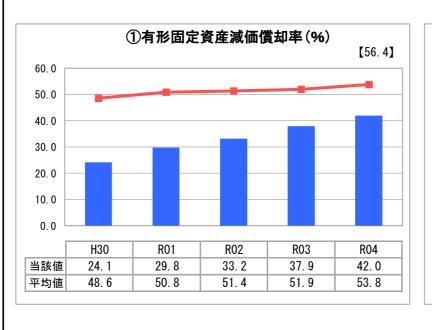


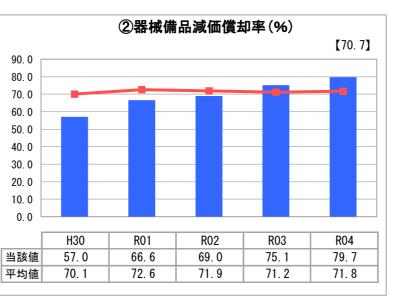




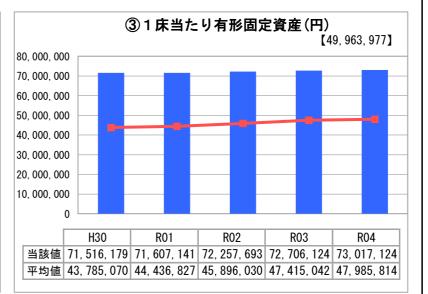


⑨累積欠損金比率(%) [63.0] 120.0 100.0 80.0 60.0 20.0 R01 R02 H30 99. 2 95. 7 93.9 当該値 92. 7 92. 3 平均値 90.8 81.9 91.6 100.1 94. 9





2. 老朽化の状況



グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
 - 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

機能分化・連携強化 ************************************		地方独立行政法人化		指定管理者制度導入	
_	年度	-	年度	_	年度

<u>地域において担っている役割</u>

- 昭和45年に全国で2番目の小児専門病院として神戸市須磨区に開 |院、平成28年に神戸市中央区のポートアイランドに移転。 県内唯一の小児専門病院として高度専門・特殊医療を提供すると
- ともに、高度急性期医療を担うことにより、小児医療の最後の砦と しての責務を果たしている。
- 他の医療機関等との役割分担と連携のもと、総合周産期母子医療 センターとしてハイリスク妊産婦・胎児・新生児に対応するほか、 小児救命救急センターとして重症患者に対する小児三次救急医療を 提供し、また、小児がん拠点病院として質の高い小児がん医療を提 |供している。
- 新型コロナウイルス感染症に対しても一定病床数を確保し、ハイ リスク患者の受入を行っている。

Ⅱ 分析欄

経営の健全性・効率性について

- 経常費用が給与費、光熱水費の増加により増加したものの、救急 患者の増加等により入院収益が増加したことから経常収支比率、医 業収支比率は改善。
- │・小児専門病院である当院の診療単価は総じて類似病院平均を上 回って推移しているが、医師、看護師等が多く給与費対医業収益比 |率が高い状況。

老朽化の状況について

- 質の高い医療と安全安心な病院の実現を目指して策定された「県 立こども病院建替整備基本計画に基づき、神戸市中央区のポートア イランド内に新病院を整備し、平成28年5月に移転したところである |ため、有形固定資産減価償却率は平均値を下回る。
- ・器械備品減価償却率は、病院移転時に診療機能高度化のため大量 に整備した機器の多くが耐用年数を迎えたこと、従前から予算の都 |合等により更新を見送っている機器もあること等により、前年に引 |き続き上昇した。
- 1床当たり有形固定資産額は、一般的に小児専門病院は医療機器 |の設備に占める割合が同規模の一般病院に比べて高い傾向にあるこ |とから平均値を上回っている。
- ・旧病院から移設した医療機器も多いが、保守点検や修繕等、適切 なメンテナンスに努め、機器の長寿化を図っている。

全体総括

- 兵庫県下唯一の小児専門病院としてハイリスク妊産婦等の受入強 化、広域からの集患、診療応援等による先天性心疾患の新規患者の |確保等、患者数の増加を図り、特定入院料の算定率向上、在院日数 |の適正化に引き続き取り組み、収益の向上を図る。
- ・小児専門病院である当院の診療単価は総じて類似病院平均を上 回って推移しているが、各種専門医教育病院としての学会指定を受 |けていることもあり、給与費対医業収益比率が70%超と他の県立小児 |医療専門病院と比較しても相当に高いため、地域連携の推進や診療 機能の充実等による病床利用率の拡大等を通じて、職員数に見合う 医業収益の確保、向上を目指す。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。